



取組概要

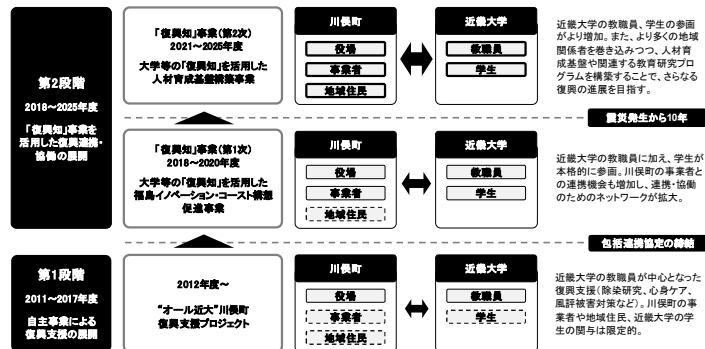
概要

川俣町とのこれまでの連携蓄積をもとに、**総合大学としての研究力・教育力・発信力**を活かしつつ、近畿大学の総力を挙げて、“オール近大”で事業を実施する。

5つの重点分野（A：農業・食、B：原子力・除染・リスクコミュニケーション、C：観光、D：集落復興・コミュニティ再生、E：SDGs）を設定し、川俣町を拠点に、学生、地域関係者の双方を対象とした教育研究プログラムを開発し、**小中学生～社会人までの様々なターゲット**に対して適用（実施）する。

連携体制

川俣町役場をはじめとして、川俣町内の事業者、組合、NPO、地域住民、学校関係者等、**幅広い分野の方々の協力・連携**のもと、本事業を実施している。



川俣町・近畿大学の連携による復興関連活動の進展

これまでの成果

A：農業・食関連

（かわまたジェラート・かわまたバーガー・アンスリウムスイーツ等の商品開発、農業インターンシップの実施、熱帯果樹や薬用植物等の試験栽培 等）



B：原子力・除染・リスクコミュニケーション関連

（野生キノコの採取、放射線測定 等）



C：観光関連

（フードツーリズムの開発、コーヒーフェスティバルの開催 等）



D：集落復興・コミュニティ再生関連

（サイクルツーリズムの充実、サイクルロゲイニングのイベント開催、地域ワークショップの実施 等）



E：SDGs関連

（SDGs 探究授業用のデジタル教材の作成、授業の実施 等）



その他：

（大学・地域連携学講座（役場職員との勉強会）、川俣町×近畿大学 復興連携フェスタの開催、町広報誌でのPR 等）



今後の展開

“オール近大”という学部を超えた全学的な取り組みを行うことにより、**5つの重点分野を中心に、学生、地域関係者の双方を対象とした多種多様な教育研究プログラムが開発**され、あわせて、小中学生～社会人までの様々なターゲットに対して適用（実施）される。これらを通じて、**福島イノベーション・コースト構想の実現に寄与する人材育成の基盤の形成**が期待される。あわせて、SDGsや持続可能社会の構築への理解・マインドを有し、かつ、多種多様な専門性を有する未来志向の「復興人材」の育成・集積が期待される。

また、西日本を拠点とする近畿大学が様々な関係者を巻き込みながら積極的に活動を展開することで、**震災の風化が懸念される中、“オールジャパン”での復興活動の進展への貢献が期待**される。

川俣町と近畿大学は包括連携協定を締結しており、本事業の終了後（2026年度以降）においても、**引き続き各種の支援・連携活動を実施**していく。